

「市民第一主義」 & 開かれた市議会に挑む

市議会(議員)は、

市民第一主義の

原点に立つ！

「初心、忘るべからず」

市民の審判(選挙)を仰ぐ議員にとって、忘れてはならない金科。

市議会は、選ばれた市長と議員が対峙した議論の場。市議会に、市長派・反市長派は存在しない。

26

米子市議会議員定数

山陰の十万都市で最も少ない

市議会議員には、

- ①退職金は、ありません。
- ②議員年金も、ありません。

市議会(議員)は、

市長・行政の監視に

徹すべき！

野坂市政の、市議会十五年間に省みれば、市長(副市長)の姿勢を監視と言うより、擁護(守る)するという、議員の数(論理のない)が多数を占めた。

市政沈滞の一因に、議会がある。

市議会(地方議会)に、

政党性は、要らない！

市議会は、政党政治を競う場と言うより、政党・会派を超えて、市民(社会)の公益を優先にした議論の場とすべきだ。

議員は、それぞれに思想、信条、理念の相異を尊重しながら、市民の公益にとつて、「良い意見」は、誰の意見であろうとも、ベストな議論を尽くし、議会の「合議」を図ることが使命である。

その意味で、政党性は要らない。

市議会の変革

歴史と向合い、

明日を照らす！

前回選挙の時、野坂市長への「評価を問う」、立候補者アンケートの集計記事(地方紙)がある。

評価は、「現職二分、新人不満」と見出しで報じ、新人は「評価できない四二%」、全体で「どちらかといえば評価できない四四・八%」と集計の結果が載っている。

この評価結果が、現議会に、どのような足跡を残してきたのか。

一方、市議会に必要な改革は、「チェック機能の向上」が五五%を占めたとある。向上したのか。

議員の説明責任が求められる。

野坂市政十四年間の

幕とトピックス！

市の「都市ビジョン」が描けなかった失政に、上福原地区の大型店誘致、「イズミ夢タウン」(仮称)構想の挫折がある。

この「構想」は、商都米子の購買力の市外流失を止め、雇用を確保し、税収入の基盤を広げるという効果が期待された。

当時、商工会議所等の、強い反対で誘致に失敗し、市外の大形店の増床を許し、市内の購買力を奪われ、クルーズ船のおもてなしも素通りとなった。

頭の黒いネズミを

飼ってはならない！

小池知事の、都政の「頭の黒いネズミ狩り」政争は、地方議会の活性化を勢いづけさせる。

議会の、既成会派の枠組みに縛られた「古い慣習」は、新人の若い力を削ぐことはあつても、市民目線の議論の高揚にならない。

議会の、ポスト争いを粋がつて、数の力を振舞う「会派」の成れの果ては、保身主義に身を固めた、「頭の黒いネズミの寝袋」と化かす。議会の活性化は、議員個々の自立にある。

遠藤とおる
ホームページ&ブログ

遠藤とおる

検索

ホームページ
「市民と議会」 A4版を掲載

編集後記

「がまん坂」

テレビドラマの「暴れん坊将軍」の主題歌、北島三郎さんの唄です。

歌詞に共鳴しています。

(俺がやらなきゃ、

誰がやる)

回り道だぜ、

風が吹く)

幾度の「壁」にぶち当たり、その「壁」を乗り越える時の「応援歌」にしています。

今日も、心で歌います。

市議会議員

遠藤とおる

